発行　伊丹市立少年愛護センター　NO. 293　平成２５年８月７日

センター通信

南十字星の国から

伊丹市立伊丹高等学校
校長　岡田　学

市立伊丹高校で11年前から始めたオーストラリア英語研修に、引率で参加させてもらうことができました。ホテルの外へ出て、街灯から離れて夜空を見上げると、満天にミルキーウェイが…。北半球とは違う星座に戸惑いながらも、あれが南十字星ではないかと、見つけた喜びを感じました。

本日の「English」の宿題は、南十字星を見ての感想。生徒たちもホストファミリーと星空を見上げているだろうか。知らない土地で、知らない家族と住む。言葉が通じても大変だと思うが、ましてや英語しか通じない家庭での２週間は大変だろう。それでも行きたいと言った生徒たち、行かせてくださった保護者の方の思いを強く感じ、成長した姿を見てもらえたらと願う。オーストラリアは広い。ちょっとした友人に会うにも千キロを車で走ってという話が、普通の会話に出てくる世界です。言葉も文化も違った国で、同じ高校生たち、ホストファミリーの方と暮らす２週間は、生徒たちにとって大きな経験になると思います。

今、本当の英語力が求められています。政府の教育再生実行会議では、スーパー・グローバル・ハイスクール構想が打ち出され、海外に留学する生徒や海外の大学に進学する生徒を増やしたいとしています。しかし、ただ、英語が話せれば良いのではありません。英語はあくまで、コミュニケーション手段です。自分を知って欲しい、自分の思いを相手に伝えたいという気持ちが大切です。自分の話を聴いてもらうには、まず、相手の話を聴く、これがコミュニケーションの基本です。生徒たちは、バディーたちと一緒に授業を受け、昼食やおやつを食べたり、遊んだりして学校で過ごします。放課後は、ホストファミリーと夕食を食べたり、テレビを見たりして２週間を過ごします。オーストラリアに来て初めて、生徒たちは、自分からコミュニケーションすることの大切さ、自分が日本人であることを実感したと思います。伝わる・伝えることの楽しさを知って、英語の力を磨いていって欲しいです。

オーストラリアにいても、ホテルではフリーのWi-Fiが用意され、日本のニュースを見たり、友人とメール交換をしたりと、全く不便がありません。南十字星が頭上に見えるこの国も、環太平洋という大きなつながりがあり、世界が狭くなったと、本当に実感することができた英語研修でした。

見逃さないで子どものサイン

子どもたちにとっては楽しい夏休みの真っ最中ですが、毎日元気に過ごしているでしょうか。
夏休みは気持ちのゆるみもあって万引きや自転車盗、また、喫煙といった非行に染まりやすい時期でもあります。家庭はもちろん、大人が「地域の子どもを見守る」姿勢を是非お願いしたいものです。

①家庭では
- 善悪のけじめをはっきり教えよう。
- 子どもの生活に目を向けよう。
- 家族のふれあいを大切にしよう。
- 日常の会話を大切にしよう。

②地域では
- まず大人が規範を示そう。
- 子どもたちに「愛の一声」をかけよう。
- 地域ぐるみで環境浄化をしよう。
- 「非行少年を生まない社会づくり」を心がけよう。
- 暴力団等による犯罪から子どもたちを守ろう。

③学校では
- 社会のきまりやルールを身につけさせよう。
- 人のいたみや喜びを感じあえる心を育てよう。
- 子どもを温かく見守ろう。
- 伊丹っ子ルールブックを活用しよう。

④量販店では
- 商品陳列の改善や工夫をしよう。
- 防犯体制の充実をしよう。
- 声かけ運動の励行をしよう。
- 店内放送の実施をしよう。

⑤児童・生徒は
- 自分の行いに責任を持とう。
- 万引きは犯罪（窃盗犯）です。
- 命や物を大切にしよう。
- 生きていることに感謝の気持ちを持とう。

平成２５年度『阪神地区青少年補導委員連絡協議会総会・研修会兼阪神地区青少年を守り育てる地域フォーラム』　～宝塚市で開催される～

上記の総会・研修会が去る７月１２日（金）ソリオＩ３階の宝塚ソリオホールにて開催されました。阪神地区７市１町から多数の関係者が参加し、伊丹市からは、倉島少年愛護センター所長、宮北少年補導委員連合会会長はじめ１９名が参加しました。
開会行事に続き総会では、議案はすべて承認・可決されました。平成２５年度阪神地区青少年補導委員連絡協議会の活動方針も確認されました。

研修会では、神戸大学名誉教授　日本臨床教育学会理事、広木克行さんの「地域の教育力を高めるために～地域で子どもを支える環境づくり～」と題した講演がありました。以下その要旨です。
人間の心の育ちには豊かな人間関係を経験することが大切であり、3つの関係が必要である。
1つ目は親子や教師と子どもといった「縦の関係」。子どもは選ぶことはできないが欠かせないもの。良いこと、悪いことを教えられる存在である。
2つ目は友だち同士という「横の関係」。最近は学校から帰るときに約束しないと出会えないなど希薄になっている。集団で集まることはほとんどなく、けんかが親を含んだトラブルに発展することもある。
3つ目は地域で出会う大人（近所のおじちゃん、おばちゃん、年上のお兄ちゃん、お姉ちゃん）という「斜めの関係」。自ら選び、近づくことも遠ざかることもできる。関係を選びながら心理的体験をする。補導委員の皆さんが係わる子は斜めの関係が必要な子かもしれない。
「子育て支援」という言葉は、10年くらい前にはなかった言葉。かつては当たり前だったことが当たり前ではない。「斜めの関係」は以前は誰も意識していなかったが、意識して係わらなければ、大人が当たり前だと思っていることが身につかなくなっている時代である。
貧しい関係の中で子ども時代を送ってきた子どもは「愛着」が育たない。触れ合う、抱っこ、心のふれあい、目と目を見つめて話すなどを通して、この人は私を絶対に見捨てない、そういう母のイメージを心の中に取り込み、「基本的信頼感」を獲得する。
「基本的信頼感」を持っている子は、補導委員にも話してくれる。「基本的信頼感」が育っているかは、目を見ればわかる。育っている子は目を見る。
「愛着」がない子の親は、叱ることができていない。怒ってしまう。どこで爆発するかわからない。気にくわない程度で怒る。子どもの話を聴くクッションを設け、子どもが話してくれるときに受け止める。それから言うべきことを言う。叱ってくれる親は子どもから尊敬される。怒る親は子どもから見離される。「愛着」がない子は最後のブレーキがない。
子どもたちの中に流されずにすむ力、ブレーキはいつ育つか。9歳までは興奮しっぱなしでブレーキは持っていない。親などの外からのブレーキが必要。9歳過ぎて前思春期に入り、ブレーキが育ちはじめる。どうすればブレーキが育つのか。それは、9歳までに夢中になって遊ぶ、興奮する体験をすること。夢中になって遊ぶ体験が不足していると、ムカムカしたり切れたりする。子どもにとって遊びがいかに大切なものであるか。大方のことは見守りながら、自分の責任で遊び込む、そういった遊びの環境を保障してあげることが大切である。でもそこでのブレーキもたいしたものではない。思春期になり、様々な葛藤を通して、それを乗り越えた頃に落ち着いてくる。
補導委員さんの仕事は、斜めの関係としても、地道で大切なものだ。

◆街頭補導の件数　《平成25年7月》

	幼小	中	高他	大人	計
声かけ・会話等	203	85	45	63	396
遊びに関して	21	11	7	4	43
ぐ犯・不良行為	0	7	23	0	30
交通に関して	43	114	86	281	524
計	267	217	161	348	993

◆電話・来所相談の件数　《平成25年7月》

	件数	前月比	累計
電話相談	18	＋5	68
来所相談	1	－2	7

◆白ポスト回収状況　《平成25年7月》

	数量	前月比	累計
有害図書	１９５	－９８	
有害ＡＶ	６３０	＋９３	
計	８２５	－５	３，１９８

白ポスト設置場所（市内１６箇所）
車塚公園・阪急稲野駅・南センター・阪急新伊丹駅・阪急伊丹駅・いたみホール
バラ公園バス停・荒牧バス停・北センター・中野西公園・裁判所前・山田バス停
女性児童センター・ＪＲ伊丹駅１Ｆ・ＪＲ北伊丹駅南口駐輪場・西桑津バス停

８月の主な行事

７日（水）　伊丹市少年補導委員連合会役員会・定例理事会
９日（金）　少年を守る日（市内広報・一斉補導）
２０日（火）　伊丹市少年進路相談員連絡会
２１日（水）　三市（伊丹・川西・宝塚）合同補導
２３日（金）　県青少年センター所長一日研修会
２３日（金）　神戸保護観察官駐在
２４日（土）　いたみ花火大会
２７日（火）　有害図書回収（市内１６箇所白ポスト）
３０日（金）　伊丹市少年補導委員全体研修会

※「センター通信」へのご意見ご感想を、伊丹市少年愛護センター（Tel：780-3540）までお寄せください。